

日本アンダーライティング協会

第7回海外事情研究会をオンライン開催

コロナ最新事情と生保業界への影響

日本アンダーライティング協会は10月7日、第7回海外事情研究会をオンラインで開催した。講演者としてミュンヘン再保険シ...

と死亡者数のデータを示し、米国および欧州の感染拡大が継続していること、それに比べて日本は...



アルムス氏

は飛沫およびエアロゾルで感染し、人と人の直接的な接触や、密閉空間での大声での会話などが最も感染のリスクを高めるとして、米国でのス...

ミュンヘン再保のアルムス氏が最新動向を報告

講演に先立ち、日本アンダーライティング協会 歴を紹介し、「全編英語講習委員長の河野理事での講演となるが、講師が、今回初めてリモートでの開催となる海外事情研究会について、講演者へのウエブ画面上での質問手順などを説明。続いて、同協会の岡崎理事が、講演者であるミュンヘン再保険会社シンガポール支店チーフメディアカ...

アルムス氏の講演は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染の広がり、感染に影響をおよぼす重要な因子について、アルムス氏の講演は、

ような影響を及ぼすかについて考察する内容となった。講演の冒頭では、世界の各地域の現在の感染者数

ける行動が効果を発揮しているかと評価された。次に、新型コロナウイルスの感染の機序について、WHOが本年6月にそれまでの見解を修

果に違いがみられること、が、実際のデータやグラフを用いて解説された。現在、各国で行われている抗体や免疫研究につ

いては、血清有病率、無症候性対症候性、T細胞免疫反応などについての調査・研究事例が紹介された。新型コロナウイルスの再感染については事例が少ないとしながら

パターンが説明された。日本は20年春の第1波以降、一定数の感染者の発生は続くものの明確な第2波は訪れないという3つの中では最も良いシナリオが想定できると分析。一方で、欧州などでは再びロックダウンを必要とする大きな第2波が訪れる可能性が指摘され、経済的な面も含めて再度のロックダウンは社会生活への影響が大きいと、回避できることが望ましいと述べた。

最後に新型コロナウイルスが生命保険事業に与える影響について触れ、身体への直接的な影響としては呼吸器へのダメージが挙げられ、重症化ケースの50〜70%に長期的な呼吸器への影響がみられるとした。間接的な影響としては、ロックダウンによる精神疾患の増加

正し、感染流行地域においては無症状の場合でもマスクの着用を推奨するガイダンスを発表したことで、マスクの性能によりウイルスの飛散抑制の効

最後、新型コロナウイルスの請求件数が減少している現状を考慮すると、今後の受診率の変化にもよるが、新型コロナウイルスによる請求とある程度相殺されるとの見方を示して、アルムス氏は講演を締めくくった。

講演について参加者からは「コロナ感染症は今後もしばらく流行が続くと思うので、また国外からの視点で最新情報を聞けるとうれしい」「Euro MOMOの分析が生保業界の参考になるものだった」とのコメントがあった。また、リモートでのセミナー開催について「リモートでの視聴は現地まで行く手間や時間を要さないため、参加が非常にしやすいと思う。今後もぜひリモート配信をしてほしい」との声が寄せられた。

(文責・ミュンヘン再保険・太田芽衣子)